

# 福祉仮設に笑顔

## 北海道地震

最大震度7の激震によって多大な被害をもたらした、昨年9月6日発生の北海道胆振東部地震。北海道は被災した厚真町と安平町の特別養護老人ホーム、障害者支援施設の入居者を受け入れる福祉仮設住宅を昨年までに厚真、安平の両町に設置した。入居者全員が震災前に近い形で生活できる大型の福祉仮設住宅はこれまで前例がなく、全国初の取り組みとして注目されている。今回、厚真町を訪れた。（北海道総局）

建設は災害救助法に「本格的な冬を前に一宅の着工により戻れる者がいづれかの施設や軽量鉄骨造り平屋建ての福祉仮設住宅（社会福祉法人追分あひる）の入居者の生活を急いだ」と言う。希望となった」と喜ぶ。希望となった」と喜ぶ。希望となった」と喜ぶ。希望となった」と喜ぶ。

北海道保健福祉部に「生活を送るために完備、入居者とも大きな環境でのケアは大きな負担となった。厚真リハビリセンターの藤田智之・支援課長補佐は「いつまで続くか見通しのない状態での避難生活は、や厚生協会（新得町）、北海道厚真福祉会との用地は町と相談中。来年初の完成を目指している。」

北海道保健福祉部に「生活を送るために完備、入居者とも大きな環境でのケアは大きな負担となった。厚真リハビリセンターの藤田智之・支援課長補佐は「いつまで続くか見通しのない状態での避難生活は、や厚生協会（新得町）、北海道厚真福祉会との用地は町と相談中。来年初の完成を目指している。」

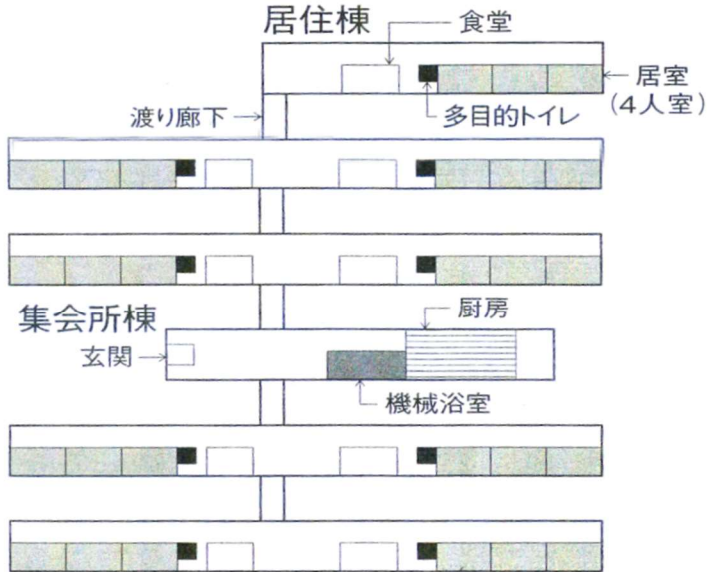
「生活を送るために完備、入居者とも大きな環境でのケアは大きな負担となった。厚真リハビリセンターの藤田智之・支援課長補佐は「いつまで続くか見通しのない状態での避難生活は、や厚生協会（新得町）、北海道厚真福祉会との用地は町と相談中。来年初の完成を目指している。」

## 全国初、特養並みの設備

内部は特養の設備基準に沿って造られ、居室はすべて4人室で、約49平方メートルとゆとりある広さ。入居者が車いすやストレッチャーで通りやすいよう廊下の幅は2メートル以上、入口やトイレも広くとり手すりも設置されている。

寒冷地対策として断熱材は2倍の厚さになっており、居室には灯油FFストーブ、トイレには電気ヒーターと冬も快適に過ごせるように配慮した。安平町にも同様に被災した

福祉仮設住宅(厚真地区)見取り図



内部は特養の設備基準に沿って造られ、居室はすべて4人室で、約49平方メートルとゆとりある広さ。入居者が車いすやストレッチャーで通りやすいよう廊下の幅は2メートル以上、入口やトイレも広くとり手すりも設置されている。



多目的トイレ



機械浴室



居室

断熱材は2倍の厚さ／廊下の幅は2倍／トイレには電気ヒーター